

科目名 (科目番号)	スポーツ障害と理学療法 (062733)	教員名 鈴木康文・永井智・他	学科等	理学療法	必修	履修年次	4
			曜日・時限等	時間割表参照		単位数	1
			オフィスアワー		火5	A305研究室(鈴木)	
授業概要	スポーツ外傷・障害の病態と発生機序を理解し、スポーツ理学療法を実践するために必要な知識と技術を習得する。さらに、様々な競技の特性についても学び、競技種目特性に基づいたスポーツ外傷・障害の予防方法、リハビリテーションプログラムについても学ぶ。						
準備学習	毎回の授業について少なくとも1時間程度の予習・復習をすること						
授業計画	回	授業項目	学習内容・到達目標				
	1	スポーツ理学療法 スポーツ外傷・障害の概念	到達目標:スポーツ外傷・障害の発生要因と特徴と発生機序について理解する。 学習内容:スポーツ理学療法の内容について学ぶ。				
	2	競技種目特性	到達目標:陸上競技の競技特性、必要な機能的・体力的要素について理解する。(向後) 学習内容:競技種目における動作特性と体力特性について学ぶ。				
	3	競技種目特性	到達目標:陸上競技の競技特性、必要な機能的・体力的要素について理解する。(向後) 学習内容:競技種目における動作特性と体力特性について学ぶ。				
	4	競技種目特性	到達目標:バレーボールの競技特性、必要な機能的・体力的要素について理解する。(高尾) 学習内容:競技種目における動作特性と体力特性について学ぶ。				
	5	競技種目特性	到達目標:ラグビーフットボールの競技特性、必要な機能的・体力的要素について理解する。(深谷) 学習内容:競技種目における動作特性と体力特性について学ぶ。				
	6	競技種目特性	到達目標:野球・ソフトボールの競技特性、必要な機能的・体力的要素について理解する。(永井) 学習内容:競技種目における動作特性と体力特性について学ぶ。				
	7	スポーツ外傷の発生メカニズム	到達目標:競技種目毎にスポーツ外傷・障害の発生につながる動作の特徴を理解する。 学習内容:スポーツ外傷・障害発生のメカニズムの分析を行う。				
	8	理学療法評価	到達目標:スポーツ理学療法評価のために必要な検査・測定を選択と実施ができる。 学習内容:形態計測、関節可動域の測定を行う。				
	9	理学療法評価	到達目標:スポーツ理学療法評価のために必要な検査・測定を選択と実施ができる。 学習内容:徒手筋力検査を行う。				
	10	理学療法評価	到達目標:スポーツ理学療法評価のために必要な検査・測定を選択と実施ができる。 学習内容:疼痛評価、姿勢とアライメントの評価を行う。				
	11	理学療法評価	到達目標:スポーツ理学療法評価のために必要な検査・測定を選択と実施ができる。 学習内容:整形外科的テストを行う。				
	12	スポーツ理学療法	到達目標:スポーツ現場での外傷、障害の評価と手順を理解し、救急処置が実施できる。 学習内容:スポーツ現場における救急処置について学ぶ。				
	13	スポーツ理学療法	到達目標:代表的な体幹のスポーツ外傷・障害に対するスポーツ理学療法プログラムが立案できる。 学習内容:スポーツ外傷・障害に対する理学療法とトレーニング法について学ぶ。				
	14	スポーツ理学療法	到達目標:代表的な上肢のスポーツ外傷・障害に対するスポーツ理学療法プログラムが立案できる。 学習内容:スポーツ外傷・障害に対する理学療法とトレーニング法について学ぶ。				
15	スポーツ理学療法	到達目標:代表的な下肢のスポーツ外傷・障害に対するスポーツ理学療法プログラムが立案できる。 学習内容:スポーツ外傷・障害に対する理学療法とトレーニング法について学ぶ。					
成績評価の方法・基準	筆記試験により成績評価を行う。						
教科書	スポーツ理学療法学 動作に基づく外傷・障害の理解と評価・治療の進め方 改訂第2版			監修 陶山 哲夫 編集 赤坂 清和		メジカルビュー社	
参考図書							
教員からのメッセージ	必要に応じて、実技を交えながら授業を展開するので、毎回運動のできる服装・靴で参加すること。集中講義となるので、開講日を確認すること。						